

国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人の世に熱あれ 人間に光あれ^⑭～ 溢れる涙を誇りとして生きたい～

自分の中に溢れる思い、語りが他の生徒の思いを引き出していく

徳島県中学校同和教育研究大会での公開授業、板野中学校3年B組の教室には参観者が溢れています。一人ひとりの生徒が、参観者に思いを届けていきます。自ら挙手をし、自分の中に溢れる思いを語ります。一人の生徒の語りが他の生徒の思いを引き出していき、次から次へと思いをつないでいきます。

それは、仲間への強い信頼から生まれてくる語り合いです。中学2年から続けてきた、学年全体で語り合う部落問題学習（全体学習）から培われてきたものであり、それは、生徒一人ひとりの誇りになっています。

この公開授業でも、思いを語り切ったとき、生徒一人ひとりの中に大きな自信が育まれていきました。そこには、溢れる涙を必死にこらえながらの語りもあり、クラスの中に熱い思いが広がっていきました。語り合いの人権学習のよろこびはここにあります。

授業の後半、自分の本当の思いを語るよろこびが溢れた2人の生徒の語りです。

T・Fの語り

「間違っていることを間違っていると言えたことが自分を成長させてくれた」

今までこの学習をしてきて、最初の頃は手を挙げて発表するときに、自分で手を挙げようと思っていても、10分ぐらい手を挙げるのができなくて、そのままみんなの意見を聞くだけだったんです。でもみんなの意見を聞いている中で、僕自身の中で変わっていくものがいっぱいあって、やっと手が挙げられるようになったんです。それでも長い時間が流れていくうちに、同和教育をやっぱり自分には関係ない問題という気持ちが出てきて、また手を挙げられんようになって、今も、頑張らなあかんという気持ちと自分には関係ないという気持ちの両方があるんです。だから、いつもこの授業の度に、自分を反省しながら頑張ってきているんです。

そんな時に、ある子が、資料についての考えをまとめる学習プリントを「そんなん適当に書いとけ」と言ったことがあるんです。その時、僕はものすごく腹が立ったんです。その子と同じような気持ちにならないで、心の底から腹を立てることができたのは、僕の中にまだ弱い部分もあるけど、心の底から、同和教育をなくしていかないあかんという気持ちが強いんだと思って、この気持ちを大切に頑張っていかなあかんと思って、今頑張っています。

間違っていることを間違っていると言えることって、ほんまに大切だと思います。僕は、間違っている友だちに「そんなこと言うな」と言えたことによって、自分というものに自信を持ちました。

H・Iの語り

「3年B組の絆というものをいつまでも持ち続け頑張っていきたい」

今日もまた一つ大きな峠を越えたと思います。やっぱりみんな頑張っているから、自分も胸張って頑張っていくことができるんだと思います。やっぱり「人の世に熱あれ、人間に光あれ」で、やっぱり人間みんないっしょなんだと思います。

部落に生まれた、部落に生まれなかったということにこだわるのではなくて、一人の人間として、これからずっと、下を向かず胸張って頑張っていきたいと思います。

そして、やっぱり何かしらんけど、いつも涙が出てきてしまうんだけど、これからは涙を流さないように、ずっとこの学習やこの出会いを大切に、ずっと将来も頑張っていって、この3年B組の絆というものを、いつまでも持ち続け頑張っていきたいと思います。



本気の人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおランチ共同代表 森口 健司